

令和4年 病害虫防除指導情報 第3号

作物名：もも
病害虫名：せん孔細菌病

昨年は、一部園地でせん孔細菌病の発生が多くみられました。
発生が多かった園地では、薬剤散布だけでなく、防風対策や春型枝病斑の剪去などの耕種的対策も必ず実施し、防除の徹底を図りましょう。

1 発生状況

昨年の果実調査において、せん孔細菌病の発生は平年並でしたが、一部園地では発生が目立ちました。発生が多かった園地では病原細菌の越冬量が多いと見込まれ、本年も伝染源となる春型枝病斑の発生が見られています。

2 防除対策

(1) 耕種的防除

① 防風対策

風を強く受ける園地で多発しやすいので、防風網の設置などの対策を行う。

② 春型枝病斑の処分

春型枝病斑（写真1）は病原細菌の一次伝染源のため、徹底的に切除することが重要である。春型枝病斑の主な発生時期は4～6月であり、7月以降も発生するため、定期的に園地を見回り、紫褐色～紫黒色の病斑を生じた結果枝（1年枝）を見つけ次第、枝ごと切り取って処分する。また、生育の遅れている枝、芽や幼果、枝先が枯死している枝も切除する。



写真1 春型枝病斑（枝の病斑や花芽の枯死）

③ 夏型枝病斑の処分

6月～8月に新梢に発生する夏型枝病斑（写真2）も伝染源となるので、見つけ次第枝ごと切り取って処分する。

④ 袋かけの励行

前年、果実被害が多かった園地では、果実への感染を防ぐため有袋栽培とし、仕上げ摘果をできるだけ早く終わらせ、速やかに袋かけを行う。



写真2 夏型枝病斑 (新梢の病斑)

(2) 薬剤防除

葉、新梢及び果実への新たな感染を防ぐため、以下の薬剤を散布する。

散布時期	薬剤名	FRAC コード	倍数	年間使用回数
落花20日後頃 ～落花40日後頃	マイコシールド	41	2,000倍	5回以内
	又はスターナ水和剤	31	1,000倍	3回以内
7月上旬	デランフロアブル	M9	600倍	4回以内
7月中旬	デランフロアブル	M9	600倍	4回以内

表1 せん孔細菌病の防除薬剤(令和4年度もも病害虫防除暦から抜粋)

- 注) 1 「落花20日後頃」～「落花40日後頃」にマイコシールド又はスターナ水和剤を1～3回使用する。
2 マイコシールドとスターナ水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、それぞれの薬剤を連続使用しない。

一次伝染源である春型枝病斑の早期切除に努めましょう！

詳細は「令和4年度指導参考資料」を参照

(URL : <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/R4-ks5.pdf>)

せん孔細菌病は薬剤散布だけでなく、防風対策、発病枝の処分、袋かけ等の有効な防除法を総合的に組み立てて毎年継続することにより著しく軽減できます！

詳細は「平成25年度指導参考資料」を参照

(URL : <http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/h25k83.pdf>)

★農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください★

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 <https://pesticide.maff.go.jp/>
(独) 農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報・速報」
<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/index/index.html>

《当情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所 〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6

TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900

E-mail:byogaichu@pref.aomori.jg.jp

担当:主査 齊藤景子